

## 2022年度 第2四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2022年10月27日(木) 15:30~16:45

### 全体

Q:年間業績予想(10月27日発表)の上振れ余地は。

A:

- ・直近1ヵ月の平均レートで推移すれば、営業損益ベースで約20億円程度の上振れが期待できる。  
また、管理可能経費などの経費も約10億円程度の削減余地がある。

Q:年間業績予想について、営業損益は期初計画を大幅に上回るが、純損益は微増に留まる要因は。

A:

- ・アジア子会社の水害対応などのマイナス要因を特別損失に織り込んだことや非支配株主に帰属する純損益が増加するため。

Q:中国市場の見方に読み違いがあったとのことだが、具体的には。

A:

- ・中国市場は、ロックダウンの解除により2Q以降緩やかに回復すると想定していたが、パワエレ インダストリーのFA分野については昨年水準に届かないと見ており、これを下期業績予想の見直しに織り込んでいる。

Q:上期は新製品の売上が好調であったとのことだが、具体的には。

A:

- ・中期経営計画では、売上高に占める新製品の割合5%増を目標としているが、このまま計画通り進捗すれば、今期、1年前倒しで達成できる見込みだ。分野としては、半導体やパワエレの製品が伸びている。

### パワエレ エネルギー

Q: 施設・電源システムは好調に推移しているが、今後弱含むリスクはあるか。富士電機特有の伸長要因があれば教えてほしい。

A:

- ・施設・電源システムは、海外の半導体メーカーの投資が好調に推移し、当社は顧客ニーズにしっかり見合った製品を提供できており選ばれている。引き続き好調な業績を継続できるだろう。

Q:器具の2Q受注高(対1Q)が減少する要因は。受注キャンセルが発生していないか。今後の売上見通しは。

A:

- ・器具の1Q受注には先行受注が含まれており、2Qから平準化してきている影響によるもの。現時点で受注キャンセルはない。
- ・3Q以降は受注が減少局面に入ると想定しているが、受注残が積み上がっているため、下期は操業を維持して高水準の売上を継続する。景気後退局面でも受注を獲得し、来期につなげていきたい。

## パワーエレクトロニクス

Q: 低圧インバータの2Q受注が好調な要因は。

A:

- ・国内は2Qから先行発注が収まり、受注・売上が同水準になってきた。
- ・海外はアメリカのオイル&ガス向けの需要が増加している。輸送期間の長期化を懸念する顧客から先行発注が入ってきており、2Qは2023年度出荷分も含めた大口受注を計上した。

## 半導体

Q:半導体(分野別)の2Q受注及び3Q以降の受注見通しは。

A:

- ・2Q(対1Q)は、電装向けが15%増、うち電動車が16%増(先行発注を除き19%増)、エンジン車が12%増。
- ・3Qは為替影響が大きく、半導体全体は2Q並み、為替影響を除き、対2Qで6%増の見通し。電装向けは約20%増、うち電動車が20%超の増加見通し。産業向けは先行発注の影響により、2Qから若干減少する見通し。

Q:電装向けの2Q、3Q受注が対前Qで増加する要因は。

A:

- ・顧客の生産増に加え、3Q以降は当社の生産能力増強に伴い、供給量が増える見通し。

Q:産業向けの上期受注が増加した要因は。また、今後の見通しは。

A:

- ・産業向けはFA関係が好調に推移し、対前年増となった。足元ではテレビ向けが巣ごもり需要からの一巡により若干減少したことに加え、中国向けエアコンの需要低迷により下振れしている。
- ・今後もFA関係においては、EVや電池関係向けの工作機械が好調に推移すると見ており、中国エアコン等の減少分をカバーしていく。

Q:半導体の在庫状況などにより、下期の稼働率が低下するリスクはあるか。

A:

- ・自社在庫は過少が継続し、流通在庫も過多になっていない。下期の稼働率は産業・電装ともフル稼働を継続する見通し。

Q:半導体の上期決算(対前年)の増益要因の内容と、下期の業績見通しは。

A:

- ・上期は、為替影響を除いても増益となり、物量増効果が大きく寄与した。設備投資による資本費の増加に加えて、部材価格や動力費の高騰があったものの、コストダウン、価格アップ、物量増でカバーした。
- ・下期は、部材価格や動力費の高騰を物量増で打ち消し、対前年増益の見通し。

Q:半導体の下期売上高について、分野別の対上期の伸び率は。

A:

- ・電動車の加速を背景に電装向けが対上期40%増の見通し。
- ・産業向けは為替影響により減少するものの、為替影響を除き上期並みに推移する見通し。

Q:電装向けの下期売上高は、自動車生産台数の引き下げによる下振れリスクはあるか。

A:

・大部分は顧客の確約があり、大きな下振れはないと見ている。

Q:電動車向けSiCのスペックインの状況は。

A:

・SiCは2024年から拡大する見通しだが、2025年、2026年から車種展開が進み、増加する見通し。

### **食品流通**

Q:年間業績予想に中国自販機における貸倒引当てを織り込んでいるとのことだが、対象社数と金額規模は。また、中国市況の見通しは。

A:

・貸倒引当ては1社で10数億円を織り込んでおり、現在織り込むべきものは全て織り込んだ。中国市況は、2022年度は大きな回復を期待できず、2023年度以降の回復を見込んでいる。今後の状況を注視し、対応していく。

以 上